

# 機友会ニュース

(題字は村山五郎氏)

三学科構成の機友会と母校の一層の発展を祈念して  
立命館大学機友会会長 大塚 典雄

(昭和二十四年)

時下、機友会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本会の諸活動に対し、何かとご支援を賜り誠に有り難うございます。

機友会は、後掲の年表からもお分りのとおり、この程、創設六〇周年を迎えております。これを記念して去る二〇〇三年十二月六日に創設六〇周年・BKC移転十周年記念総会を開催するとともに、機友会ニュース(第九号)を記念号と位置づけ発行することになりました。つきましては、記事二執筆や資料のご提供などのご支援を頂いた各支部関係各位、さらに大金副会長はじめ編集作業をご担当頂いた多くの会員各位のご支援により、本号が発行されました。多大のご支援を頂いた会員各位に衷心より敬意を表したく存じます。



これまで機械工学科およびロボティクス学科の卒業生、在学生ならびに機械システム系大学院の卒業生、在学生、さらに機械システム系教職員から構成されており、すでに七千名を超える大きな組織に成長して参りました。理工学部では二〇〇四年四月より「マイクログ機械システム工学科」、「電子情報デザイン学科」、「建築都市デザイン学科」の三学科

が新設され、マイクログ機械システム工学科は機械工学科・ロボティクス学科とともに機械システム学系を構成します。このような新たな状況の中で、機友会としては機械工学科(定員一〇〇名)・ロボティクス学科(定員八〇名)・マイクログ機械システム工学科(定員八〇名)の三学科合同の校友組織とし、新たな飛躍を期することになりました。

一方、母校では三学科新設と同時に「情報理工学部(定員六〇〇名)」が設置され、教育・研究の両面で大幅な拡充が実現しました。全国的な大学の過当競争の中、このような新たな飛躍を次々に実現し、母校の社会的評価が、段と高まっております。校友各位とともに慶びに堪えない次第であります。

ご存知のとおり本会では過年来、全国を十三ブロックに分割した全国規模の支部組織結成の大事業に取り組みで参りましたが、島田前会長を中心に、役員各位ならびに全国各地の会員各位の熱心なご協力により、すでに全国支部組織がすべて確立されております。この事業は、まさに十年にわたる本会の一大プロジェクトであり、機友会の歴史を画する大事業であったと存じます。各支部設立のための諸準備や設立後の支部運営について、各支部の会員各位には大変なご尽力と多大のご支援を賜り、ここに重ねて厚くお礼を申し上げます。



立命館大学機友会創設60周年記念  
BKC開設10周年記念

第19回 立命館大学機友会総会

2003年12月6日  
2562-1(2)フキヤシマス

機友会本部では、各支部に対して機友会総会参加者の交通費実費1名分の支給、各支部の総会開催時の支援金交付、機友会名簿の更新、在学生に対する表彰、奨励制度の拡充等、機友会活動の活性化のための諸施策を実施しております。また、会員各位のご意見を頂戴しながら、機友会および母校のさらなる発展のために、会員の皆様とともにベストを尽くすべく存じます。今後とも本会に対して格別のご理解とご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各位の皆さまのご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

二十一世紀COE

採択記念講演会

平成十四年度から文部科学省の新規事業として、「世界的レベルの研究拠点形成費補助金(二十一世紀COEプログラム)」制度が発足しました。このプログラムは、我が国の大学が世界のトップレベルの大学と伍して、教育および研究水準の向上や世界をリードする創造的人材を育成していくために、競争的環境を醸成し、学問分野ごとに世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援することにより、活力に富み、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを

推進することを目的としています。

本学は十四・十五年度において、「放射生命科学研究所」、「マイクロ・ナノサイエンス・集積化システム」、「京都アート・エンタテインメント創成研究」、「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」の4拠点が採択され、現在、文字通り世界最高レベルの研究・教育が推進されています。今回の機友会総会では、この二十一世紀COEプログラムに採択された4件の中から、「マイクロ・ナノサイエンス・集積化システム」と「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」の2件に関し、プロフェッショナル・リーダーの先生方から採択記念講演をお願いしました。

「マイクロ・ナノ・システム・集積システム」研究の構想と展開

教授 杉山 進

我が国のこれまでの産業の発展はものづくり立国、とまで呼ばれる高い水準の製造技術に立脚して来たと言っても過言ではない。しかしながら、産業界では、これまで世界をリードしてきた半導体技術分野においてさえも、その基盤技術の研究開発を独自のリソースで今後とも展開していくことに限界が出現しており、大学の貢献に大きな期待が寄せられている。国際的な視点からも、産業界と大学との連携がもたらしている

フロンティア的、ベンチャー的流れは今後の産業発展の基軸の一つとなつてきている。

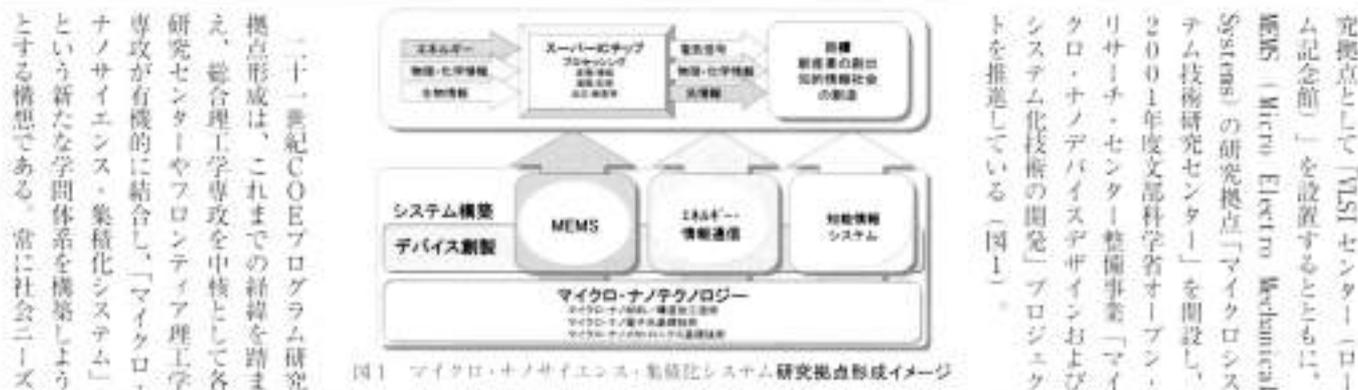
大学におけるシーズが産業界のイノベーションに寄与できる分野の一つとして、電子、機械、光、化学、バイオなどのエネルギー・情報を微小空間内で組織的に取り扱いプロセスでできる新しい集積化システムが実用化に向けて期待されている。

情報ストレージや光通信、携帯端末等の情報通信分野、自動車、航空機、人工衛星などの移動体制御分野、MEMSチップ、化学分析システム、バイオセンサ等の生化学分野、ドラッグデリバリーシステム、診断機器などの医療分野、大気・水質モニタリングなどの環境分野など広範な応用が期待されている。また、ナノテクノロジー、すなわち原子・分子レベルで組成・組織を制御することによって実現される新規機能を有するナノ構造・機能材料をマイクロデバイスに融合することにより、マイクロからナノの領域での新しいパラダイムの



構築に寄与できることが期待されている。このように加速的な勢いで発展しているマイクロ・ナノサイエンス研究領域においては、シーズ(萌芽)・ニーズ(応用)の両視点を有し、新しい産業創出の核となつて活躍できる若手技術者・研究者の育成が切望されている。

立命館大学理工学部は、1994年、びわこ・くさつキャンパスに移転以来、先進的な施策により社会のニーズに応じた研究教育活動を展開してきた。1994年には「ロボティクス・FA研究センター」、「材料・生産技術研究センター」など研究センター群を設立し、社会ニーズに沿って我が国の先駆的・産学連携研究活動を開始し、日本学術振興会の未開拓事業やMEMS地域コンソーシアムを推進してきた。1996年には「SRセンター」が開設され、シンクロトロン放射光を活用した物質構造解析、超微細加工技術分野で飛躍的な成果を上げてきた。1996年度文部科学省ハイテク・リサーチ・センター整備事業「極微構造と機能の解析を基盤とする新素材の創製」研究プロジェクト、1997年度学術フロンティア推進事業「ナノ構造の創製と新機能の創製」研究プロジェクト、1999年度ハイテク・リサーチ・センター整備事業「イソテリジェント・シリコン・ソサイエティの研究」プロジェクト、2000年度大規模集積回路設計の教育研



二十一世紀COEプログラム研究拠点形成は、これまでの経緯を踏まえ、総合理工学専攻を中核として各研究センターやフロンティア理工学専攻が有機的に結合し、「マイクロ・ナノサイエンス・集積化システム」という新たな学問体系を構築しようとする構想である。常に社会ニーズ

に応じ展開してきた立命館大学の研究教育活動における実績のもと、その実現は十分に可能なものであると確信する。

図2に二十一世紀COEプログラム「マイクロ・ナノサイエンス・集積化システム」研究拠点形成イメージ図を示す。マイクロ・ナノサイエンス・集積化システムすなわち電子、機械、光、化学、バイオなどのエネルギー・情報を微小空間内で組織的に取り扱いプロセスングできる新しい集積化システム「スーパーICチップ」を開発するための科学技術は多岐に渡り、また解決されなければならぬ未知の技術要素が多く残されている。本拠点形成にあたっては、社会的ニーズが高かつ本学に

マイクロ機械システム工学科  
創設する学術分野



図2 マイクロ機械システム工学科(2004年度新設)の創設する学術分野

においてこれまでの実績があり研究ポテンシャルの高い、①基礎研究、②エネルギー・情報通信デバイス研究、③知能情報システム研究の三つの研究分野を柱とし、それぞれの研究分野の研究陣を事業推進担当者として結集し、研究体制を組織する。そして、各研究分野で得られた成果を融合・集積する新しい学際的研究分野を開拓し、新たな知見を科学技術の発展に資することを目標とするものである。

教育活動面では、1996年理工学部内に「ロボティクス学科」と「光工学科」を新設し、学部教育の充実を図ってきた。特に、2000年には学際横断的専攻として「マイクロエレクトロニクス・プロフェッショナル・エンジニア・コース」以下、「MELIX」を設置し、集積デバイス、集積プロセス、集積実装に関する人材の育成に取り組みとともに、現在では大学院レベルでのMELIX展開を進めている。2001年度には今まで以上に独創的な先端技術へ積極的にチャレンジする人材教育を展開するため、5年一貫性の博士課程「ワロンティア理工学専攻」を新設した。ここでは、博士課程教育に注力し、実践力を備えた博士學位取得者の輩出を目指している。更に2001年度には理工学研究科に「国際産業特別コース」を設け、アジア諸国の人材育成と大学院の国際化を推進している。更に2004年度には理工学

部に「国際技術者育成を主眼とした「マイクロ機械システム工学科」(図3)の新設を予定しているなど、マイクロ・ナノサイエンスに関する教育体制の整備に着手している。

本COEプログラムでは、マイクロ・ナノサイエンス分野全般において活躍できる人材を育成するため、企業から受け入れた技術者の再教育を含めて、多くの当該分野における博士學位取得者を産業界に輩出するとともに、大学において研究教育の根幹を担える若い研究教育者の育成を目指すとともに、新しい研究・教育システムを構築し、新世紀の産業界において核となり活躍する実践的技術者・研究者の育成を目指すものである。

### 地震と文化財

教授 土岐 憲三

最初に、これまでに日本で発生した有史以来の地震の記録や調査結果を解り易くご説明頂いた。その後、近い将来において大型地震の発生が予想される場所とその大きさ等について、ご紹介があり、やおら出席者各位の注意を喚起することとなった。また、個々の地震の被害の甚大さや復興に要する期間や、地震予知技術の進歩等についても詳しく解説して頂いた。

一方、京都の国宝や重要文化財の

件数や密度の高さについて、全国レベルでの調査結果が紹介されるとともに、京都で大型地震が発生した場合の多数の文化財の焼失や破壊の規模があまりにも大きく、これを守ることの歴史的意義や国家的意義、さらに世界的意義が熱っぽく論じられた。

とくに、第二次世界大戦時にアメリカ軍でさえ、人類の文化財を守るために空爆を避けた京都に対して、日本自身が十分な地震対策をせず、近い将来、これを地震で失ってしまうのか大戦下においてさえ、アメリカ軍がこれを守ったというのに、日本自身がこの人類の宝物を焼失させるとすれば、これは世界に向けて国家的な恥であり、何とかこれを守ることは日本の使命でないのか?との土岐先生の信念のような重い訴えがあった。この訴えを中心テーマに地



震火災から文化財を守るための研究が、文部科学省の二十一世紀COEプログラムの採択されたことの意義が改めて紹介され、文部科学省としてもこの国家的課題に対する認識が高まってきたことが紹介された。

最後に、文化財を地震火災から守る協議会の発足と、今後の活動計画等についても興味深いお話を伺いました。また、地震災害から文化財を守るためには、何よりも地震災害に対する日常的な国民的認識の高揚と、これを表現させるために税金の何%かを国策として、地震防災に回すような仕組みを早急に確立することの必要性のアピールがあり、出席者一同、認識を改めざるを得ない思いであった。

### 機友会60年の歩み

年代	経緯
昭和二年	女子会高等工学校及び、機械科女子会よりなる。機友会創設。機械科主任教授日下部先生のご指導による学生機友会発足。1927年
昭和三年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1928年
昭和四年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1929年
昭和五年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1930年
昭和六年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1931年
昭和七年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1932年
昭和八年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1933年
昭和九年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1934年
昭和十年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1935年
昭和十一年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1936年
昭和十二年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1937年
昭和十三年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1938年
昭和十四年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1939年
昭和十五年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1940年
昭和十六年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1941年
昭和十七年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1942年
昭和十八年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1943年
昭和十九年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1944年
昭和二十年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1945年
昭和二十一年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1946年
昭和二十二年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1947年
昭和二十三年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1948年
昭和二十四年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1949年
昭和二十五年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1950年
昭和二十六年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1951年
昭和二十七年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1952年
昭和二十八年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1953年
昭和二十九年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1954年
昭和三十年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1955年
昭和三十一年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1956年
昭和三十二年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1957年
昭和三十三年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1958年
昭和三十四年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1959年
昭和三十五年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1960年
昭和三十六年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1961年
昭和三十七年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1962年
昭和三十八年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1963年
昭和三十九年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1964年
昭和四十年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1965年
昭和四十一年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1966年
昭和四十二年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1967年
昭和四十三年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1968年
昭和四十四年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1969年
昭和四十五年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1970年
昭和四十六年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1971年
昭和四十七年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1972年
昭和四十八年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1973年
昭和四十九年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1974年
昭和五十年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1975年
昭和五十一年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1976年
昭和五十二年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1977年
昭和五十三年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1978年
昭和五十四年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1979年
昭和五十五年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1980年
昭和五十六年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1981年
昭和五十七年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1982年
昭和五十八年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1983年
昭和五十九年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1984年
昭和六十年	女子会創立の法廷にこの学生機友会(立命館大学)が加入。1985年

### [1] 昭和16年～昭和36年:機友会草創期・学生機友会の時代



ありし日の日下部先生

衣笠旧1号館(現清新館付近)

昭和16年<学生機友会の創設>  
機械科主任教授日下部先生のご指導により<学生機友会>が創設された



衣笠学舎の正門



学生機友会による工場見学会  
(学生幹事長:大南正保前社長)  
見学会:川崎重工業  
見学会日:27年11月26日

“衣笠第1号新館(現3号館)完成記念”  
昭和29年6月20日

日下部先生・藤谷先生のご指導により  
諸先輩にも案内を出して、OBを含めた  
創設後初めての学生主催による

第2回 機友会総会



[2] 昭和37年～昭和60年 <成長期:OBの全年度幹事大集合から現総会形式の定着まで>

藤谷先生の音頭で、昭和16年卒から昭和37年卒までの年度幹事約200名が、市内丸太町鴨川西詰にある“京都電信電話会館”に大集合し、初めての機械科同窓会が開催された。



第3回 機友会総会 (OBによるはじめての集り) 昭和37年7月8日 於: 京都電信電話会館



昭和35年頃の教員

◇その後2回の総会を経て会員名簿、機友会会則、役員分担などが整備され第6回総会以後、2年毎に「総会・講演会・懇親会」というスタイルが定着し、現在に至っている。



第10回 機友会総会 於: 中川会館および存心館 昭和60年10月27日

[3] 昭和62年(1987)～平成5年(1993) <発展期:機械工学科50周年～さよなら!衣笠>

<機械工学科開設50周年記念・第11回 総会>



藤谷教授の音頭で  
“万歳!”三唱

『記念植樹』



末川記念会館ホールおよび存心館地下食堂 昭和62年11月15日

大南正瑛総長就任記念祝賀会



平成3年2月24日 衣笠学舎学而館地階ホール(機友会主催)



記念植樹の北山台杉は今、衣笠学舎・図書館前の庭に移植されこんなに大きくなっています

平成5年11月23日

理工学部主催「衣笠学舎さよならの集い」

『衣笠学舎さよならの集い』

さよなら衣笠 第14回 機友会総会 末川記念会館にて 平成5年10月17日



大南総長挨拶



### [4] 平成4年～平成13年＜全国13ブロックの支部設立に向けて—滋賀・京阪神＞



滋賀支部設立総会 於：ホテルニューサイチ・アネックス 平成4年9月6日



平成6年9月3日

第2回総会にて  
“第1号支部旗の授与式”  
島田会長より山田支部長へ



懇親会で和やかな一こま



第3回 総会・懇親会 平成12年6月7日



第5回 京都支部総会 於：パークホテル 平成15年6月21日



第2回 大阪支部総会にて  
“支部旗授与”

メルパルク大阪  
平成10年11月28日



明石海峡大橋開通記念 “ルミナス神戸”船上にて



兵庫支部 第3回「クルージング総会」 平成10年6月6日

# [5] <全国13ブロックの支部設立に向けて—奈良和歌山・中国・四国・九州>



中国



倉敷川沿いの古い街並み

中国支部設立総会 於:倉敷ターミナルホテル 平成9年9月6日



四国  
瀬戸大橋



第2回 総会(和歌山グループのみで) 平成12年4月29日

潮岬灯台



支部旗授与  
島田会長より阪東支部長へ

四国支部設立記念総会



高松ホテルニューフロンティアにて 平成11年4月2日



—記念講演— 大南正瑛前総長

立命館大学機友会九州支部設立記念総会



九州支部設立記念総会

平成10年7月11日



福岡市内の憩いの場・大濠公園

# [6] <全国13ブロックの支部設立に向けて—北海道・北陸信越・関東・東海>

札幌・時計台



## 立命館大学機友会北海道支部設立記念総会



立命館慶祥高校にて 平成11年10月11日

### 北陸信越支部

毎年各県を巡回し、振り出しの富山に戻って 第6回 総会 平成14年11月23日



富山県水尾市  
阿尾の浦温泉「永芳閣」にて

### 関東支部幹事会 平成12年



北陸信越支部設立記念総会 於:名鉄トヤマホテル 平成4年9月19日



東海支部 第2回総会(BKC見学ツアー含む) 平成9年5月17日 BKCコアステーション前にて

**[7] 東北支部の設立により 全国13支部設立達成！** 平成13年3月24日

BKCイーストウイング

全国13支部の区分図 <設立順>

◇平成3年10月13日、第3回総会の際、前機友会会長 島田泰男氏のご提唱でスタートされた全国13ブロックの支部づくりは後半、現会長大庫典雄氏に引継がれ、平成13年3月24日、東北支部の設立により、目出度く達成！



仙台・七夕まつり (垂幕・貼付け)



東北支部設立記念総会 2001. 3. 24

**[8] 更なる飛躍へ……機友会ホームページの開設・全国13支部のネットワークづくり**

<ホームページ開設のお知らせ>

◇ 機友会の全国13支部設立達成を機会に本部と支部並びに支部相互間の、連携を密にすると共に、機友会の若返り活性化を図るため、先日来酒井先生にお願いし、関係会員とも相談の上、BKC イーストウイング4Fの機械システム事務室内に機友会コーナーを設け「機友会ホームページ」開設の準備を進めて参りましたが、5月上旬には試験発信が出来る運びとなっております。

<ホームページの内容>

◇ 左記にホームページの表紙を示しますが下部にある「封筒マーク」をクリックすると、本部へメールする事が出来ます。また「掲示板」を設けて居りますので、会員同士が自由に発信することも可能です。その他については実際にご覧頂くとして今後会員の皆様のご意見ご協力を得ながら順次内容を充実して行きたいと考えて居ります。



制作：S35年卒 高木 守氏

ホームページURL: <http://www.ritsumei.ac.jp/se/rm/kiyukai/index.html>

<60周年記念写真集の編集を終えて>

◇ 機友会の年表づくり

平成10年秋、機友会関係の資料を整理中にたまたま、九州支部発足の出欠回答 FAX の中に「昭和16年日下部先生が機械科主任教授時代に我々が機友会を創設した…」旨のコメント(大分支部正縁)が目につき、それから年表づくりが始まった訳です。

一方、機友会ニュース第2号発行の際、関先生にご提供頂いた写真には、はっきり「第四回 機友会」の文字が写って居り、それ以降の経歴については資料があったのですが、それ以前については、写真以外に何の記録もなく、一部詳細不明のまま仮定で年表に記載して居りました。ところが最近になって、坂本副会長ご提供の資料により、従来昭和37年の「臨時総会」としていたものが「第三回 総会」であったという事が判明、年表の一部を修正して漸く機友会の創設から現在にいたる迄の年表が完成した訳です。

◇ 写真集の編集について

新しく完成した年表を基準に、手持ちの写真と、今回特に各支部からお寄せ頂きました写真を基に、機友会の草創期・成長期・発展期・そして支部設立のスタートから13支部設立達成までを地域別に纏め、最後に更なる飛躍の時代へと題して、機友会ホームページ発信のお知らせ、及びメールによる全国13支部のネットワークづくりの計画等について提示させて頂きました。

昭和29年、当時同生であった私共昭和30年卒の幹事が計画し、日下部先生・藤谷先生のご指導を得て衣笠で初めての落段教室で第二回総会を持って以来約50年を回想しながら編集して居りますと、掲載したい写真が多々ありましたが限られた紙面では載せきれず、皆様から寄せられた写真も一部割愛せざるを得なかった事をご報告してお詫びと謝辞に代えさせて頂きます。(昭30年卒 小野健二)



## 支部だより

## 兵庫支部発足後の活動状況

支部長 岡村 司朗

(昭和三十三年卒)

機友会創設六〇周年とB5C開設一〇周年を心よりお祝い申し上げます。

機友会兵庫支部は、平成六年三月二七日に設立され、本年で一〇周年を迎えました。一〇周年を記念して、第六回総会ならびに懇親会を開催するため、目下、役員会を開いて準備をしているところです。

ここでは、兵庫支部発足後の一〇年間で活動してきた主な行事について時系列的に振り返ってみようと思います。

兵庫支部設立の第一回準備委員会「発起人会」が平成六年一月二二日に兵庫共済会館で開催されました。

支部設立発起人として、大塚典彦氏（オキタウ輪運機株式会社社長、昭和二十四年卒）以下一三名の機友会メンバーが出席しました。また、機友会本部副会長、酒井達雄先生（昭和四三年卒）が遠路遠々こられ、立命館大学の現状報告と機友会の各支部設立の経過報告がなされました。そ

の後、数回にわたって設立準備委員会が開催され、兵庫支部定期（案）、支部役員名簿（案）、設立総会等について検討がなされました。

兵庫支部設立総会は、平成六年三月二七日に神戸国際会館で開催され、大学から、大南正雄校長、田中道七教授、機友会本部から、高田泰男会長、酒井達雄副会長が来賓として出席されました。それに、会員三八名を加えて四二名の出席者でした。総

会は、来賓の御挨拶の後、支部会則制定、支部役員選出が行われ、満場一致で了承され、ここに、大塚支部長を中心とした体制で兵庫支部が運営されることになりました。その後、田中先生の記念講演があり、引き続き懇親会が開かれ、大南校長の御挨拶を賜った。懇親会は、立命館大学出身の民謡歌手、大野実佐子さんの美声を聞きながらの和やかな雰囲気で行われ、会員相互の親睦を深め、相気あいのうちに閉会しました。

平成七年一月、七日に発生した阪神・淡路大震災では、支部会員の多くが被災しましたが、機友会本部と各支部からの心温まるお見舞い状とお見舞金を頂きました。被災した会員ともどもお礼を申し上げます。

平成七年十一月には、予ねてより作業を進めていました兵庫支部会員名簿（約六五〇名）を発刊しました。

平成八年四月一四日、第二回支部総会ならびに懇親会が神戸宿泊所、六甲荘で行われました。当日は、機

友会本部から島田泰男会長、酒井達雄教授、大学から田中道七教授が来られ、総会と田中先生の記念講演として懇親会が行われました。総会では、支部役員の変更が行われ、引き続き大塚支部長以下十三名の役員が選出されました。

第三回支部総会、懇親会が平成十年六月六日、「明石海峡大橋」開通を記念して「ルミナス神戸」船上で行われました。当日は、世界最長の吊り橋を眺めながら、親睦を主眼としたクルージング総会、懇親会となりました。

第四回支部総会と懇親会が平成十二年六月二四日、神戸市立農業公園「神戸ワイン城」で晴天のもと盛大



「神戸ワイン城」にて 第4回 支部総会 2000.6.24

に行われました。六年間にわたって兵庫支部長として、ご活躍された大塚典彦氏が平成十一年の機友会総会で機友会の会長に選ばれたこと、当支部長の交代があり、新支部長に岡村司朗氏（株式会社ライゼ顧問、昭和三十三年卒）が選出されました。

同時に役員の変更も行われました。第五回支部総会と懇親会が平成十四年六月二二日、明石市の舞子公園近くにある「コースタル・リゾート・ペルーラ」ホテルで開催されました。この付近は、昔から舞子浜の美しい松林を擁した風光明媚な所です。なお、最近では、世界一の明石海峡大橋が最も美しく眺められるスポットとしても有名な所です。当日は、快晴に恵まれ、会場からの眺めは素晴らしい、快適な時間を過ごすことができました。さて、総会ならびに懇親会には、ご来賓として、機友会本部より、機友会会長の大塚典彦氏、機工工学科の酒井達雄教授、そして、会計監査の小野健一氏がご出席されました。大塚氏と酒井氏より、ご挨拶を賜り、母校の発展のお話を拝聴し、出席者一同心強く感じました。

なお、懇親会では、和気あいのなかで、先輩後輩分け隔てなく酒を酌み交わし、会員相互の親睦を深め得た有意義な一日でした。

以上は、兵庫支部の総会についての記述が主ですが、支部役員会は、毎年に数回行われています。また、「立命館大学兵庫校友会

のつどい」に当支部から役員を中心

に有志が参加して、会を盛り上げています。なお、秋に開催される機友会総会にも役員ならびに当支部会員が積極的に参加しています。

今後は、新たな役員名簿の作成や、若手の会員の総会出席への勧誘など地道な努力を続けることによって、支部活動の活性化をはかって行きたいと考えています。



舞子公園「コースタル リゾート ペルーラ」ホテルにて 第5回 支部総会 2002.6.22

## 立命館大学機友会会員の全国分布図

平成15年12月末日現在 会員総数7062名  
(諸外国在住者・住所不明者は含まず)



**RITS**

立命館大学機友会事務局

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学 理工学部

機械システム系学系

Tel. 077-561-2664

Fax. 077-561-2665

編集後記

今回の機友会ニュースについては、立命館大学機友会の創設60周年および理工学部のびわこ・くさつキャンパス（BKC）拡充移転10周年を記念する特別記念号と位置づけ、編集・発行することとなった。大倉普嗣会長および小野健二監督のご指導のもとに、機友会の全国各支部や各研究室同窓会等のご支援を頂き、原稿のご執筆をお願いした。とくに今回の趣旨に照らし、それぞれに特徴のある原稿や記念写真を多数お寄せ頂き、事務局として誠にありがたく、関係各位に衷心より厚くお礼申し上げます。

なお、支部によっては大量の写真や文章をお寄せ頂きながら、紙面の都合上、適宜調整したり、原稿を簡略化させて頂いた部分もあります。格別のご了解を頂ければ幸いです。

本号の編集に当たり、原稿のパソコン入力や版下原稿の作成に関し、本学大学院物質理工学専攻・滝沢亮平君のご協力を頂いた。ここに記して深甚なる謝意を表します。